

# 行政自治会だより

第5号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 天笠順弘

各地で「功労感謝の会」が開催されています  
～ 地域の高齢者に感謝する「功労感謝の会」が市内各地で賑やかに開催されています ～



銭太鼓・手品を楽しみました  
(松原町自治会)



寅さんの交通安全講話  
(雷電二丁目自治会)



子どもたちによる日本舞踊  
(第19地区)

## 行政自治会親善バレーボール大会開催される

平成24年度第3回古河市行政自治会親善バレーボール大会が、8月26日（日）中央運動公園総合体育館、古河体育館、市内中学校及び高等学校の体育館で行われました。

9人制男子19チーム、同女子19チーム、男女混合の部6チーム、さらに4人制ソフトバレー、フリーの部35チーム、同シルバーの部18チームと多くの参加で、好プレー珍プレーに、拍手と笑いの絶えない一日でした。応援を含め約2000人の市民がバレーボールに熱中し、試合の合間には館内のあちこちで親善と交流を深める姿が見られました。

成績、結果は表のとおりです。

(広報委員 荻谷武士)

### 第3回古河市行政自治会親善バレーボール大会 結果

部 門	ブロック	優秀賞
9人制 男子の部	A	上辺見行政区
	B	女沼行政区
	C	小堤行政区
9人制 女子の部	A	内水海行政区
	B	小堤行政区
	C	女沼行政区
9人制 男女混合の部	A	間中橋行政区
4人制 ソフトバレーボール フリーの部	A	けやき平自治会B
	B	駒羽根行政区B
	C	諸川東松原行政区
	D	駒羽根住宅団地行政区
	E	諸川上町・諸川中央町 行政区 (合同参加)
4人制 ソフトバレーボール シルバーの部	A	みどり野行政区
	B	駒込行政区
	C	上大野行政区



開会式に参加する選手たち



白熱するプレーが続きます

## 市政懇談会が開催されました

10月2日から11月12日にかけて市内10会場において市政懇談会が開催されました。

これは市と市民が情報の共有を図り、市政の概要を聴いたり、地域の課題や要望を上げたりして、さまざまな問題を協議するものです。

古河市行政自治会では、地区長を通して地域の課題を集約し、市へ要望いたしました。

また、自治会や行政区を通して参加者を募り、多くの参加をいただきました。ご協力ありがとうございました。



市の説明を真剣に聴く参加者

## 地区紹介（第4回） ～第2地区～

地区紹介の4番手として、第2地区について、規模や地区の今昔及び活動状況の一端を紹介したいと思います。

まず同地区は、平成20年古河市行政自治会の発足によって、第二小学校の通学エリアの自治会で組織され、18自治会3711世帯で構成されています。

昭和48年旧古河市の住居表示施行に伴い当地区の一部は、本町、東本町、幸町等に表示変更となりましたが、各自治会名については、由緒ある伝統的な町名を継承して現在に至っています。また、駅周辺には多くの高層マンションが建設され、それぞれにマンション名を冠した新自治会も誕生しています。

地域的には、JR古河駅周辺から南側へ三桜工業手前まで約2Km、幅約400～600mの範囲となっています。この地域には、江戸時代、古河城下町として、古河駅北側地域に鍛冶職人が住んでいた鍛冶屋敷が、地区南部に当たる原町には、足軽と呼ぶ下級武士の組屋敷が、そのほか第二小学校周辺には民家が点在していたそうです。また原町は、古河城南側からの出入りを検問する木戸や番所があって、日光街道の宿場町として賑わったと伝えられています。

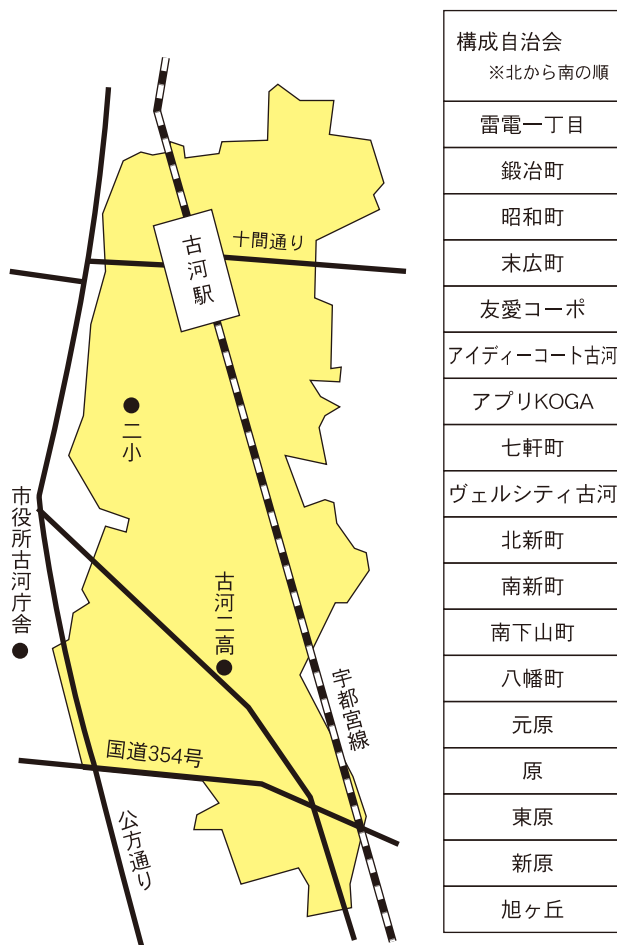
現在では、駅東地域に簡易裁判所、古河地区検察庁、労働基準監督署、公共職業安定所、東公民館等の公共機関の施設や地区中央に第二小学校、南部に県立第二高等学校があり、その他スーパーや各種商店、ホテル、マンション、銀行等が立ち並び、旧古河市の中心的地域に位置しています。

次に当地区の活動状況については、地区自治会長連絡協議会を開催し、地区長等会議の結果報告及び課題の検討等を実施しております。また、平成23年度は、栃木市大平町にある(株)関東エコー



平成23年度研修視察にて

### 第2地区 区域



サイクル工場等を、平成24年度は、さしまクリーンセンター寺久等の研修視察を実施し、それぞれに見聞を広めるとともに会長同士の交流を深めています。

地域づくり活動事業では、本年度も自治会ごと又は複数の自治会が共同で、それぞれに地域の特性を継承した桜祭りや夏祭り等を実施しています。そのほか、関東の奇祭といわれる「提灯竿もみまつり」は、ここ2年、古河駅西口前の第2地区内で開催されていますが、自治会として参加している7自治会の内、当地区から5自治会が毎年参加しています。少子・高齢化の波で、「もみ手」不足等厳しい状況の中、地域の活性化と古河市の伝統行事の継承及び市の発展に寄与しようと頑張っているところです。

清掃活動においても、古河駅高架下「四季の<sup>みち</sup>径」を、同地区の隣接自治会が毎月清掃を実施し、公共の場所の環境美化に努めていることを紹介して終りとします。

(第2地区副地区長 綿引正衛)

# 市内歴史散歩（第4回）

～ 日本のあけぼの明治維新の種を播いた偉人「熊沢蕃山」大堤・鮭延寺に眠る ～

「熊沢蕃山（くまざわばんざん）」は江戸初期の陽明学者で、岡山藩番頭をつとめられました。

1619年（元和5年）、京都・下京区にて、浪人の家庭に6人兄弟の長男として生まれ、幼名は左七郎と称し名は伯継、字は了介といわれま

す。8歳の時に、母方の祖父「熊沢守久」（水戸藩初代藩主に仕えていました）の養子となり熊沢姓となりました。

優れた才能と勉学努力によって、陽明学を学び岡山藩・藩主の善政を助け（政治的・学問的手腕が評価され）知行三千石の家老職となりました。

蕃山の治国策は、藩民への儒教の普及から軍事面の充実・治山治水などの農業土木に至るまで、国政全般に及んでいました。

39歳のときに蕃山村（しげやまそん）に引退しました。蕃山の名は、その地で「蕃山の了介」と称した事に由来したとあります。

以降30余年間講学著述に専念し、各地に招かれ後の松下村塾（吉田松陰）などへの基礎を育てて回りました。

1687年（貞享4年）69歳の時には、古河藩主・松平忠之に招かれました。時事（大学或問）を著したことにより幕府が「政治批判の罪を指摘」、高齢にも拘らず古河藩主・松平忠之に預け城内に蟄居謹慎させました。

古河城内に謹慎されながらも藩主・松平忠之に優遇され、秘かに息子を通じて「治水事業等」に

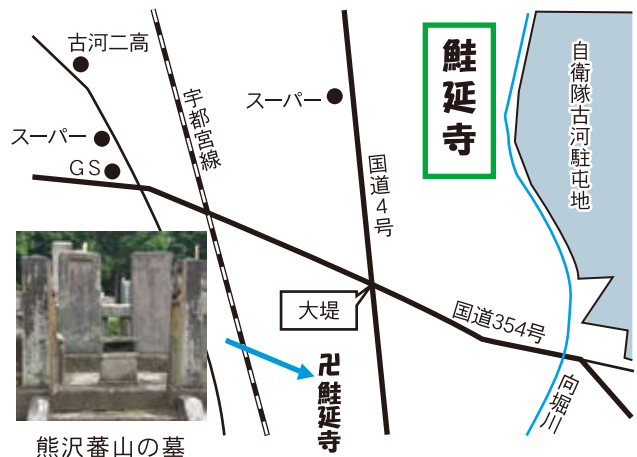
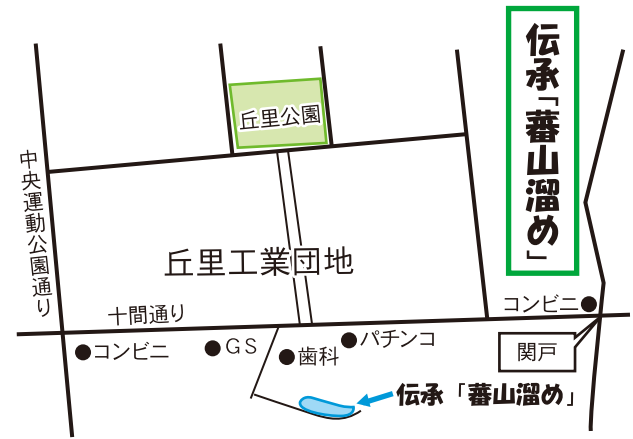
努力されました。現在も関戸行政区内に往時を窺える、伝承「蕃山溜め」にその面影を見ることができます。

1691年（元禄4年）、古河城内にて熊沢蕃山は73歳の生涯を閉じました。遺骸は古河藩主・松平忠之により大堤の鮭延寺に手厚く葬られました。

その後、1910年（明治43年）には明治維新への種を蒔いた国学者と評価され、正四位を授けられました。

熊沢蕃山ゆかりの地を市内歴史散歩のルートに加えてみては如何でしょうか。

協力：阿部仁之丞氏（ふるさと歴史家）  
（広報委員 新倉英一郎、荻谷武士）



伝承「蕃山溜め」



熊沢蕃山の墓

## 編集後記

敬老の日は昭和22年兵庫県野間谷村長が老人を大切に、年寄りの知恵を借りて村作りをしたのが始まりで、昭和40年祝日に制定されました。

古河市では地域づくり活動支援事業補助による敬老対象者と地域住民が一堂に会して交流する「功労感謝の会」が行政自治会の各地区や各自治会・行政区で「銭太鼓」、「手品」、「日本舞踊」、フーテンの寅さんに扮した「安全講話」など、それぞれ特色のある会が盛大に行われました。

“恋をして 胸はドキドキ 夢はさめ”

“敬老の 孫のお祝い 万歩計”

皆さんマダマダ 元気 元気！ (広報委員長 伊藤利彦)

## 行政自治会広報委員会

委員長

伊藤利彦

委員

鈴木國雄 横山泰男 荻谷武士

坂本廣次 新倉英一郎 菅原和美

那須和弥 湯本豊 間瀬佳嗣